

委員等意見の反映等について（ガイドライン関係）

1. 第1回協議会(5月25日)での主な意見

意見概要	対応
<p>【名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校を応援するというニュアンスが伝わる名称とするのがよい。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員では対応できないことについて、専門家等の情報を提供していくもの、困った時にこれを見ればというものがよい。 学校の目的と団体等の目的が2～3割同じであれば、やっていく間に次の重なりが出てきてうまくいくようになる。お互いの目的が違っていても、重なり合うところをどう広げていくかが重要。 学校のニーズに合わせて選択できるよう、必要時間数など講座規模が分かるとよい。 環境学習コーディネート事業の3年間の実績を分析し、参考にしてほしい。 <p>【策定後の利活用策・周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作っただけで終わらせないために、ガイドラインの内容を実践するための予算確保等、いかに学校現場に取り入れてもらうのかも併せて考えること。 作成後に重要な教員研修の場で活用するなど、ガイドラインを教員に周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回以降の協議会で検討予定 教員だけでは対応しにくい実社会や実物を題材にした授業づくりに役立つ情報・窓口等を記載する。 両者の工夫や調整で目的の重なりを広げていった事例等を取り上げ、その過程等を伝えられるものとしていく。 単発講座のほか連続講座等の事例なども掲載していく。 コーディネート案件を分析し、連携・協働の成功のポイントを記載していく。 <p>来年度以降の事業実施を検討していく。</p>

2. 事例で取り上げた学校等へのヒアリングでの主な意見

意見概要	対応
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境」という言葉を前面に出すのではなく、「授業づくり」や「授業づくりのノウハウ」といった言葉が入っているとよい。 <p>【策定後の利活用策・周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心がある教員にターゲットを絞るのが効果的である。やりたいと思っている先生はいろんなところにいる。しかし、その人たちにどう情報を届けるかが課題である。 ・理科・社会を中心として環境学習を進めている先生に配ると、ヒット率が高いと思う。 ・出前講座の案内など他の資料やチラシと併用して配布すると効果的ではないか。 ・無料でもらえる物にはありがたみがない。「ここに参加したからもらった」というようなプレミアム感を持たせるとよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくり」といった言葉を使うなど、学校の先生に読んでもらえる書き方とする。 ・効果的な周知方法について、第3回以降の協議会で検討予定